

17 『知られざる馬文化』 ルート

1. 根室市内（根室振興局前）

1.0km 1分

2. 明治公園（明治牧場【旧官営牧場】）¹

33.2km 40分

3. 厚床【馬頭観音】

10.8km 13分

4. 旧奥行白駒通所（きゅうおくくまうすえきいてしよ） 【馬交通の歴史】¹⁵

12.6km 15分

5. 別海町郷土資料館【開拓と馬】¹⁸

22.7km 27分

6. 中標津町郷土館【開拓と馬】¹⁹

1.2km 1分

7. 中標津町内（バスターミナル）

根室 中標津

かつて、北海道の開拓に馬は無くしてはならないものでした。労働力として、生活の足として、欠かすことの出来ない存在だった馬。歴史の変遷とともに、私たちにとっての馬の存在は、大きく変化していきました。馬の活躍していた時代をたどってみませんか？

* 当時使われていた馬具や作業用の道具は、「根室市歴史と自然の資料館」²にも所蔵されています。

7千情報 厚床の馬市・馬事競技大会

厚床には、かつて家畜市場（現在の厚床中学校敷地）があり、馬市が開かれる時には多くの人で賑わったそうです。馬は主に農耕用、満州用、軍馬購買などとして取引され、最も多い年には5,000～6,000頭もの売買が行われたのだそうです。…そんな馬市も、戦争が終結し軍馬の需要がなくなり、農村にもトラクターが普及し始めると、急速に縮小していきました。家畜市場は昭和42年火災によって焼失しました。

しかし、今でも馬を飼育する農家や愛好家は多く、むねる管内では毎年5～9月にかけて各地で馬事競技大会が開かれています。国内ではこの地域でしか見られない「トロッター繋駕（けいが）」という競技もありです。地域のお祭とあわせて開催されたり、お祭りメニューの中に体験乗馬があったり。昔から馬が身近な存在であったこの地域ならではの文化も。

放牧馬の風景

放牧されている馬たちが草をはんでいる風景が見られます。愛らしい目でこちらを見られてついニッコリ(〜)



（根室の放牧馬）



旧奥行白駒通所（国指定史跡）

駒通とは、北海道独特のもので、旅人の宿泊所と馬の貸出し所を兼ねた施設でした。昔の『道の駅』のようなものです。この駒通は、明治末期から入植が行われた奥行白地区の交通拠点として、明治43年10月に開設されました。当時の建築様式をそのままとどめ、別海町に9ヶ所あった駒通所の中で現存する唯一のものであり、北海道の有形文化財にもなっています。



（旧奥行白駒通所）

中標津町郷土館（本館）

文化の森、丸山公園内にある中標津町郷土館。先人の開拓時代を知らせる、考古・産業・生活・開拓資料等約8900点が収蔵されていて、歴史の勉強にもってこいの郷土館。

住所 中標津町丸山2丁目15番地
開館 3月～10月 10:00～17:00
11月～2月 10:00～16:00
休日 毎週月曜日、祝祭日の翌日、年末年始



（中標津町郷土館(本館)）

*分館は 19

7千情報 根室の馬

根室市は軍用馬発祥の地でした。改良が加えられ、農耕用から、大きくてしっかりしたものに変化していったようです。明治公園¹には官営牧場があり、馬が飼われていました。また光洋中学校（根室市）は、以前、種馬所があったところ（敷地内）です。

7千情報 馬を思う心

貴重な働き手で、仲間でもあった「馬」を大事にし、馬頭観音などを奉ったところもあります。馬を育てる人が減った今も、地域で大切に守り続けています。



（馬頭観音堂（南矢白別））

馬頭観音（厚床）

厚床へき地保育所の隣りに、「馬頭観音世菩薩像」が建っています。これは、昭和の初め根室月ヶ丘競馬場で行われていた地方公認競馬の無事を祈って建てられたものです。隣には、明治17年アメリカからやってきて根室産馬改良の基礎となった「種雄馬クワッセル号之碑」が、反対となりには根室の畜産に貢献した人達を讃えた「畜産功労者の碑」が建っています。これらは、昭和55年に、厚床家畜市場のあったこの地に移転されたものです。厚床が馬で栄えていた古い昔を、静かに見つめています。



（馬頭観音）